

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年10月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105065
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム ひばり
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町2042番地 (電話) 099-295-7033
自己評価作成日	平成30年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅地の一角にあり、周囲の住宅にもなじむたたまいで、庭には四季折々に桜、紫陽花、彼岸花と次々に彩り、よい住環境にあります。
玄関を入ると、ご入居者にもご家族にも、ご自宅に戻ってきたように過ごしていただけるように心掛けています。
ご入居者、お一人お一人のペースや流れる時間を大切に、可能な限りご本人の『～したい』を実現できるよう取り組んでいます。季節の行事や風習を大切に、四季を感じることができるよう工夫をし、ご入居者の『これまで歩んできた人生』と『今、この時を生きる』力を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は廊下で繋がっている2ユニット間や小規模多機能ホームとは行き来しての交流や災害時の相互協力関係を築いている。
- ・自治会には事業所会員として加入し、回覧板の内容を受け取ったり、事業所の「ひばり新聞」を配布して情報の交換をしている。地域の清掃や炊き出し訓練にも積極的に参加し、日常的に交流している。野菜の差し入れなどもある。
- ・管理者と職員は法人で実施している接遇ルール等の資格制度で学習し、職員の資質向上に取り組み、ケアの一貫性を大切にしている。2ユニットの利用者に対応できる体制を整え、ユニット合同で申し送りを行っている。
- ・利用者の「～したい」気持ちを大切に残存能力を活かし、その人らしい生活を支援している。
- ・法人は職員が働きやすい環境作りに配慮し、保育施設を充実したり、学校が臨時休校時などには、子供連れでの出勤にも対応している。職員育成にも力を入れ、資格取得に向けた支援や各種研修等への出席も奨励している。職員間のコミュニケーションも良く、離職者も少ない。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで読み上げを行い共有するようにしている。読み上げを繰り返すことで、日々理念を意識した介護を実践できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、「職員の心構え」と共に玄関に掲示している。朝夕、2ユニット合同で唱和し、申し送りをしている。月2回の勉強会で確認し、法人全体の会議でも唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域に出て掃除を行ったり、買い物を行うなど市地域とのかかわりを持つようにしている。大きな行事を行う際には近所への声掛けを行うようにしている。	自治会に事業所会員として加入し校区社会協議会の役員を担っている。地域の会議等に場所の提供もしている。回覧板から情報を得たり、事業所の情報誌「ひばり新聞」を地域に発信している。中学生や看護学生の職場体験、ボランティアの受け入れ、見守りメイトの実習施設として等、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	事業者の見学、ボランティアの受け入れ（見守りメイトなど）を積極的に行うようにしている。 看介護の実習生の受け入れを行い、実践を通じた専門性の普及に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にてグループホームで行っていることを報告し、会議内での意見は職員会議を通して伝えられ、日々の支援を省みるきっかけになったり、サービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット、外部評価の報告等を行い、委員からも多くの助言や提案がある。提案で地域にアンケートを依頼し、地域が求めているものをまとめて冊子にしている。今後のサービス向上に活かす計画である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>管理者を中心に行っており、職員が直に連携をとることはない。管理者を通して国、市などが考える支援の方向性などを知り、支援に活かしている。</p>	<p>市担当者とは、管理者が窓口に出向いたり、電話で事業所の報告や取り組みを伝え、連携を深めている。福祉課の担当者とも連絡し合っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については委員会を通し定期的に勉強会を行っている。また拘束を行わないことを大前提にケアについて話し合っている。日中は施錠はせず、開放している。(夜間は防犯のため施錠)</p>	<p>法人全体での研修会に参加した職員が、復命で報告し共有している。事業所でも身体拘束委員会で毎月勉強会を実施している。言葉による拘束を含め事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠せず、職員の連携と家族の協力も得て、安全で自由な生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を通して勉強会を行い、意識づけるようにしている。虐待に関するアンケートや、業務へのストレスなどのアンケートを実施し、全職員で虐待への認識を確認し、虐待を見過ごさないようにと取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を利用しているご利用者があり、実際に学ぶ機会となったと言える。今後も様々な研修会等を通し、知識を得ていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に詳細に、丁寧にご説明を行うようにしている。また改定があるときにも、直接ご説明を行い、納得・理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置を行っている。また日頃のご家族とのコミュニケーションの中でも不安なことはないか、ご不満はないのか、お伺いしながら、頂いたご意見を支援に反映させるようにしている。	利用者からは日々の関わりの中で表情や意見・要望を聞き対応している。家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。毎月、「ひばり便り」で近況報告をし返信もある。出された要望で、リハビリを取り入れたり、新聞購読の支援をしたりして、意見を反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回の勉強会で出るスタッフの意見や提案を事業所運営に反映させている。日々の申し送り等でも即時的な話し合いを行うこともあり、提案しやすい体制づくりに努めている。</p>	<p>月2回の勉強会や毎日の10分ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。出された提案でクーラーを2台取替えたり、浴室の椅子を手摺り付きに検討するなど、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は、年に2回、スタッフ自身についてのカウンセリングシートを入力により現状の把握、また目標設定を行うことでやりがいを見出すようにしている。また各取得や希望の研修受講を勧め、職員のスキルアップを意識しながら事業運営に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>学びたい研修や、自分に必要だと思う研修に参加できる機会がある。研修は様々な案内があり、研修情報を平等に確認できる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はGH協会の理事であることや、地域（吉野）でのグループホームのネットワークもあり、事業所として加入している。そこで研修や忘年会を行うことがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人から話を聞くことを大切にしている。ご本人の声・意向を取り入れ、お互いを知ってもらうよう努めている。また早くなじめるよう、他のご入居者との関係を取り持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は遠慮がちで要望を言えない場合もあることを理解し、なんでも相談できる場づくりや、ご家族の様子を見ながら、こちらからご要望がないか、具体的な問いかけもしながらお話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族より詳細にお話を伺い、アセスメントしながら、必要とされているサービスの見極めや、ご本人・ご家族の出来ること、出来ないことをしっかりと把握し、支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力の確認の行い、手伝いすぎないように気を付けている。また今まで日常生活や家庭の中で行っていたであろうことを手伝っていただくようにしている。(洗濯・買い物など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ひばり便りを家族へ発送し日々の様子を報告している。面会時にもご本人と一緒に日々の様子を報告している。行事の際には家族にも連絡し一緒に参加していただけるようお誘いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係の継続のため、利用していた美容室やお店があるときには継続して利用できるように支援している。	家族や友人・知人の面会を奨励し、居室に気軽に訪問できる環境である。馴染みの店での買い物や訪問美容師の利用、行きつけの美容院通いの支援、手紙・電話・美容院利用・墓参などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、スムーズにコミュニケーションが取れるように、スタッフが間を取り持ったり、ご入居者通しの関係性の構築を見守ったり、適切な支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居等でサービスが終了したご家族が、スタッフやご入居者に会いたいと、気軽訪問して下さり、有難いと思っている。歌や踊りの慰問に来てくださったり、GHの応援者になって下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に基本情報シートを活用しながら、その方の生活歴、ご家族からの話に思いを寄せながら意向をくみ取るようにしている。	入居時に本人や家族からの聞き取りをもとに、日々の生活の中で意見や要望を聞いて対応している。困難な場合は、表情を見ての声かけや申し送り等で情報を共有して話し合い、職員間で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞いたり、軒下マップの作製をするなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にあった生活リズムを探り把握しながら、お一人お一人のご入居者に合わせ 対応を行っている。日々記録を行い、情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングを行いその方がどんな思いや意向を持っておられるのか探ったり、今後のケア方針について話し合うようにしている。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も踏まえ担当者会議で、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、変化を記録に残し、または連絡帳にて共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者・ご家族の要望に応じて、どのようにしたらご希望に沿った対応ができるかを検討し、柔軟に支援している（嚥下の相談、リハビリの相談、外出支援の相談等を行うこともあります）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店に買い物に行くことがある。地域でのお祭りなどの行事に参加することもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を取り、ご希望のDrとの連携を行っていく。また月に2回の訪問診療や必要に応じて家族に確認を取り受診を行うこともある。	受診は、本人や家族の希望で、協力医療機関が主治医となっている。協力医療機関からの月2回の往診や歯科も口腔ケアマネジメント計画を立て訪問診療で対応している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族に報告し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に2回の医療連携の訪問看護にて健康相談を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	医療機関との連絡は管理者が行っている。入院時にはお見舞いに行き、なじみの関係のスタッフが行くことで、認知症の症状の進行のリスクを軽減したり、退院時のスムーズな帰所、生活再編につなげるようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	看取りになった時にはご本人・ご家族はもちろん職員間でも情報の共有を行い、医療機関との連携を行っている。どのような状況やご本人の状態のときに連絡を行うか、泊まり込みの付き添いの希望、在宅へ帰る可能性など、より良い最期のための支援を心掛けている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し、医師を交えて話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの場合は「看取りについての同意書」をもらっている。看取りの事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	マニュアルの確認、緊急時対応のフローチャートの掲示など、急変時の対応について平常時より備えている。法人内外の研修等を通して実践につながる知識を習得している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルの作成。定期的に避難訓練を行っている。地域と炊き出し訓練を行ったことがあるが、避難訓練を地域と合同で行っていない。</p>	<p>消防署立会いのもと年1回、自主で年1回、昼夜間想定避難訓練を実施している。同系列の小規模多機能ホームとの協力体制もできている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、大型冷蔵庫などを固定するなど安全対策にも配慮している。防災設備は定期的に点検している。地域住民と炊き出し訓練も行っている。地域との避難訓練の内容等について検討中である。水や米・2～3日分の食料品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフひとりだけ気を付けるのではなく、周囲のスタッフの言動にもお互いで意識しあい、声を掛け合いながらご入居者の尊厳やプライバシーの保護について心がけている。	法人内で接遇ルール等の資格制度があり、職員の資質向上に取り組んでいる。人生の先輩としての誇りやプライバシーを損ねない言葉かけやケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かの選択の時にはスタッフが決めるのではなく、ご利用者に選択肢をわかりやすく示し、より良い自己決定を行えるような声掛けに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活やスケジュールの中で、ご入居者と何かを行うときには、ご本人の意向や体調を伺ってから、決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	今まで行っていたこと（メイク）が続けられるように支援したり、洋服を選べる力のある方にはご本人に選んでいただいたり、理解の難しい方にもデザインを言葉で伝えたりして、個々の個性が発揮できるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューのリクエストを尋ねたり、行事食などのときはご入居者からアドバイスをいただきながら準備している。下ごしらえを手伝っていただいたり、それぞれが出来ることをお手伝いして下っています	献立は、法人の栄養士の助言を得ながら、利用者の嗜好や食事の形態に配慮して作成している。食事の下ごしらえや片付けなどを職員と一緒にやっている。個々の誕生日のお祝い、季節の行事食、外食、園庭での花見弁当、餅つき、そば作り等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を管理栄養士に確認してもらっている。水分摂取量や食事摂取などの記入を行っている。少ない方には補助食品などの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い確認しながら 必要に応じて仕上げ磨きを行っている。口腔内の状況によっては歯科往診の依頼を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを掴めるようにしながら、個々の排泄のニーズに合わせたケアを行うようにしている。	居室にトイレが整備されている。個々人の排泄のパターンや習慣を活かして、必要に応じての声かけをして、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。介護用品は個々のニーズに合わせて検討している。基本的にはリハビリパンツで対応している。退院後に、改善された例があり本人や家族の喜びも大きい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に配慮し、水分補給や適度な運動を促している。医師や看護師に相談と連携を取りながら、薬剤によるコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日程は決まっているが、ご本人の希望があるときには相談し、日時の調整を行っている。入浴日にはいつ入りたいかなどの希望を聞いている。	基本的には週3回、体調や希望にそって柔軟に対応している。個浴で同性介助、しょうぶ湯利用など、安全で個々に応じた入浴を支援している。入浴を拒む利用者には声かけ等を工夫し、職員間で連携して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って休息の時間を取っていただいている。夜間は一人一人に合わせて入床介助をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時には誤薬を防ぐため、スタッフ2人で確認を行い与薬を行っている。副作用についてはすべて理解できていないが、必要時にはすぐに確認のとれるよう薬事表をまとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の楽しみを見つけ、買い物やドライブ・散歩を行っている。出来ることは続けていくことができるよう、役割としてお手伝いをお願いすることもあり、またご利用者より声をかけてくださることもある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	週に1回の外出日を設けたり、行事やイベントとして特別な外出（そうめん流しや納涼船乗船など）を行っている。また食材の買い物時には一緒に出掛けられるよう支援を行っている。	日常的には体調などを考慮して周辺の散歩や買い物に出かけている。希望で個別に買い物や理美容院利用の支援をしている。計画を作成し、初詣や季節の花見・ぶどう狩り・そうめん流し・納涼船乗船・外食等に出かけている。家族の協力で外出や外食・理美容院利用・墓参等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際にはご本人のお小遣いを用意し、希望があれば購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば支援を行うようにしている。携帯電話を使用している方もおり、電話が繋がらないことがないように充電などの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日々の清掃・空間の匂いに注意し、季節のものを取り入れた飾りをし、生活空間に不快な思いをしないよう工夫している。</p>	<p>共用の空間は換気や採光に配慮し清潔である。茶香炉で心地良い雰囲気醸し出している。多目的に配置換えできるテーブルを設置している。フロアには利用者と職員で作成した季節感を大事にした飾りつけや花も飾ってある。畳のコーナーとウッドデッキもあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>その方の居室や、好きな場所などで、自由に過ごしていただいている。またその方の、その時の状況や状態に合う場所で過ごしていただけるようスタッフが場所の確保や提供を行っている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が使っていたものや、なじみのものなど入居時に持ってきていただき、室内は自由に使っていただいている。</p>	<p>居室は、畳とじゅうたんで構成し、ウッドデッキ付きの掃き出し窓である。洗面所とトイレ・エアコンが設置されている。ベッドや寝具・タンス・整理棚・位牌・時計・家族の写真等、使い慣れた食器や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮している。年末の大掃除には、家族の協力も得て行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>風呂場、トイレなどわかりやすいように案内している。また、手すりなどの設置もあり、動線にも物を置かないようにして独歩でも歩きやすい環境づくりに努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない